

令和3年度事業報告について

令和3年度事業報告の概要について

大杉谷登山歩道では、4月19日にオープニングセレモニーを行いました。11月23日までの期間中に、3199人分の登山届の提出があり（前年比+34%）、入山者数5167人（前年比+9%）でした。

前年度に大流行した、新型コロナウイルス感染症の影響が色濃く残る中、まん延防止等重点措置、及び、緊急事態宣言が再び発令され、登山者数は伸び悩むかと思われましたが、来訪者の足取りは回復しつつあります。

事業内容

1. 自然保護及び美化清掃の啓発

環境省より『グリーンワーカー事業（吉野熊野国立公園大杉谷登山道清掃業務）』を受託し、登山歩道の環境整備に努めました。

今年度は2回実施し、計4日間、延べ35人の活動となりました。参加者にゴミ袋を配布し、美化清掃に協力していただくことで当事者意識が生まれ、啓発に繋がったと感じています。

堂倉避難小屋周辺では、過去に捨てられたゴミが多数放置されており、来年度以降も継続して清掃活動を行っていく予定です。堂倉避難小屋の日常的な管理及び清掃については、栗谷小屋管理人に協力していただき共同で行いました。また、登山者に対しては、ホームページやSNSでの情報発信を行い、自然保護及び美化清掃の啓発を行いました。

2. 大杉谷登山歩道の維持管理

三重県より『大杉谷登山歩道維持管理業務』を受託し、日出ヶ岳登山口から第三発電所登山口までの歩道区間において、月4回以上のパトロールや登山歩道の軽微な補修、台風後の安全確認、倒木の処理、登山者の安全を確保するための看板や施設の損傷等の点検を行いました。

歩道の簡易な修繕については、関係者の皆様にご協力いただき実施した『大杉谷登山歩道関係者整備』、一般の参加者を募った『ボランティア整備プロジェクト（森林教育及び施設整備等自然保護活動）』、並びに通常のパトロールによって対応致しました。

また、環境省の直轄管理となる平等嶺吊橋と取付歩道300mの維持管理は、環境省より『吉野熊野国立公園大杉谷線歩道施設維持管理業務』を受託し、点検パトロールや登山歩道の軽微な補修、登山者への安全啓発を行いました。

3. 安全登山の啓発

第三発電所の登山口及び大台ヶ原駐車場において、登山計画書の提出及び安全登山を呼び掛ける看板、チラシ等による啓発を積極的に行い、事故の防止に努めました。

また、大台警察署大杉谷警察官駐在所と連携し、エスパール交通の登山バス運行日は、大杉谷自然の家前にて、登山届を直接回収する他、出発前のバスに乗り込み注意事項や危険箇所について解説し、安全登山を呼びかけました。

4. 大杉谷PR事業

登山センターホームページやSNSを有効に活用し、大杉谷登山歩道の状況を登山者等に提供することで、事故防止の啓発に努めました。

大台町観光協会などの町内事業所やテレビ番組、雑誌等のメディアを活用し、大杉谷のPR活動を行いました。

県外PRイベントへの出展を予定していましたが、緊急事態宣言の発令のため、中止になりました。

新たにイラストガイドマップ「大杉谷を歩く」を制作し、登山センター、観光案内所、登山用品店などで配布を開始しました。また、希望する旅行会社、登山ガイドにも配布を行いました。

SNSの活用には、大杉谷の見どころや四季折々の様子、毎日の天気とイベントの告知、登山歩道のパトロール及び整備状況など、こまめな情報発信を行いました。

各種SNSのフォロワー数推移

	4月19日（開山日）	11月23日（閉山日）
Facebook	1324	1484
Instagram	603	991
Twitter	415	585
Line	256	320

5. 山岳遭難事故への対応

大杉谷登山歩道での山岳事故は4件でした。(死亡1件、軽傷2件、疲労1件)

今シーズンは山岳救助隊の出動はありませんでした。

また、大杉谷登山歩道以外での事故については1件発生しています。(千尋滝沢登り)

6. イベントの開催

三重県から受託した『森林とふれあう自然公園環境整備業務』により、一般の参加者を募集し、地元ガイドによる森林教育や、堂倉避難小屋～ミネコシ区間の階段の修繕整備を実施しました。

また、大杉谷登山歩道の関係者(地元ガイド、山岳救助隊、大台警察署、三重県、大台町)により、シシ淵と光滝下流部へのモルタル施工、支障木の撤去などを実施しました。

参加者の皆様のおかげで、職員だけでは中々手が回らない箇所の整備を行うことができました。今後もこれらの整備イベントは継続して行っていきます。

実施主催イベント一覧

7月24・25日	ボランティア整備プロジェクト 森林教育 及び 施設整備等自然保護活動
10月19・20日	大杉谷登山歩道関係者整備
10月23・24日	ボランティア整備プロジェクト 森林教育 及び 施設整備等自然保護活動

7. 収益事業について

登山者の利便性を図るための登山用品や地元産物等の委託販売、T シャツなどの記念品の自主販売を行いました。

8. 寄付金

登山口付近の大日トイレを維持していくための寄付金箱を設置し、トイレ利用者からの寄付金を募りました。入山協力金に協力していただいた方には無料開放していましたが、協力金との相乗効果でトイレの寄付金に協力していただいた方も増加しました。

令和3年度 トイレ寄付金収入

90,225円（令和4年3月31日現在）

9. 大杉谷入山協力金

開山期間中、訪れる登山者に協力金へのご理解とご協力をお願いしました。Pay Payやインターネットによる事前決済のサービスを活用し、少しでも登山者が納入し易い環境を整えています。

併せて行ったアンケート調査では68件の回答がありました。多くの登山者から入山協力金の導入についてご賛同していただいています。

納入場所	納入金額	備考
大杉谷登山センター	1,267,800円	有人
自販機（大杉谷側）	1,102,000円	無人
自販機（大台ヶ原側）	255,000円	無人
電子決済手数料	-302円	
受取利息	32円	
合計	2,624,530円	

入山協力金推移

